

昭 30	昭 16	8	8	7	12	8	10	6
6		22	1	10	7	6	上	23
昭 15								

志見以下「部」ノヤンミン」事件に参加。

新清機密第四号により編成改正完結。

新清機密第一四号により編成改正完結。

軍令陸甲第一四号により関東軍防疫部編成改正下令。

関東軍防疫給水部と番号変更。

「ハルビン」において編成改正完結。

左記の編成をもつて、細菌の研究を担当、各部隊の防疫給水、血清、痘苗、予

防ならびに練成隊において青少年の教育を実施す。

本部「ハルビン」 總務部 第一、二、三、四部

資料部 教育部 (練成隊)

診療部

支那 牡丹江、孫良、林口、大連、海拉爾。

関東軍命令により「ベスト」防疫隊を編成大連支那に編入せしむ。

開戦前における本部及び支隊の配置の状況次の如し。

本部 「ハルビン」 中村 石 井 四 郎 以下約二、三〇〇名

支隊 海 拉 爾 少佐 加 藤 恒 剛 約一六五名

牡丹江 少佐 尾 上 五 男 約二〇〇名

8 9
 本部は開戦と共に北朝鮮方面に移動すべく南下開始。旅支支隊は第一二三師団の北滿兵陣地に入る。

同日、梅拉爾支隊は夕刻全員自動車で開城に向つて出発、女子軍團は「チヂハル」に避難せしめる。

同日、梅拉爾支隊は夕刻全員自動車で開城に向つて出発、女子軍團は「チヂハル」に避難せしめる。

8 10
 林口支隊は二〇名を残置林口出發八月一三日七日に到着。

牡丹江支隊は松花江に前進し愛河の線にある部隊の防波給水に任じ同日「ソ」軍の進出により拉古に後退次いで横道河子に後退す。

8 16
 停戦。

停戦に伴ない「ソ」軍により左の如く武裝解除されたる後入「ソ」(南進)す。

一、本部は新京付近を南下中停戦となりその後南下し釜山より朝鮮一山中八日五十六日より九月五日にわたり仙崎、茨、茨子にそれぞれ上陸演習、主力出発時「ハルビン」我軍の人員は双城館において「ソ」軍に収容されたる後入「ソ」

一、大連支隊は停戦後その備「ソ」軍に利用され中国長春鉄道大連研究所と改称し勤務せしめられたる後一部は那人に混入一部は安東、「ハルビン」、「北支、

山東方面に移送せらる。

「牡丹江支隊は機運河子において「一部隊隊首を除く」主力は敗走に移された
る後入「ソ」す。

「孫興支隊主力は孫興において武裝解除されたる後入「ソ」。

「海拉爾支隊は八月十五日「ソ」ハト」に移動八月十六日同地において武裝解除
され「チツハル」に移されたる後入「ソ」。

「林口支隊は兩下中八月十四日「ソ」軍械庫の攻撃を受け分隊一部は一面波及
び東京城大部は機運河子において武裝解除されたる後入「ソ」。

「ベスト防疫隊は奉天において武裝解除されたる後居留民會所属の別隊を編設
し二十一年八月田府軍の接収によりその大部は同年補給す。

部長

中務 石 井 四 郎